

2022年7月11日

各位

株式会社クシム
(東証スタンダード市場：2345)**(開示事項の経過) スケブコインに係る業務委託契約の締結に関するお知らせ**

株式会社クシム（本社：東京都港区、代表取締役社長：中川博貴、以下「クシム」）の連結子会社であるチューリング株式会社（本社：東京都神田区、代表取締役：三瀬修平、以下「チューリング」）は、株式会社スケブベンチャーズ（本社：東京都港区、代表取締役社長：岩野裕一）と、暗号資産である Skeb Coin（以下、「スケブコイン」）の開発や付随するスマートコントラクトの開発、国内外取引所における上場支援やその他流動性向上のための施策にかかるアドバイザー業務について、スケブコイン総発行枚数の3.2%以上を報酬とした業務委託契約の締結を致しましたのでお知らせいたします。

なお、2022年6月10日付で公表した「スケブコインに係る業務委託契約の締結に向けた検討開始に関するお知らせ」において、株式会社スケブ（本社：東京都港区、代表取締役社長：喜田一成）との業務委託契約締結に向けた検討の旨を記載しておりましたが、スケブコインの発行元法人はスケブの親会社である株式会社スケブベンチャーズとなりますので訂正させていただきます。

**1. Skeb（スケブ）とは**

国内外から日本のクリエイターに対して、イラストや音声、映像等を有償でリクエストすることができるコミッションサービスです。100以上の言語に対応した自動翻訳機能と越境決済機能によって、利用者の約30%が海外からとなっています。

6.8%という業界最安値の手数料と最短即日入金報酬サイクルが特徴で、昨今の情勢の変化により、新たな収入源を求めるクリエイターの登録が急増し、登録者数約210万人、クリエイター登録者数約11万人、月間取引高4億円以上と2022年6月現在、国内最大級のコミッションサービスとなっています。

※ 2022年6月3日 株式会社スケブ調べ

2. Skeb Coin（スケブコイン、仮称）とは

全てのクリエイターにとって、最も重要な価値が「表現の自由」であることは、改めて言うまでもありません。

海外プラットフォームによる表現の規制が問題となっている昨今、2021年2月、大手クレジット会社から複数の出版社に対して、商品の表題に「〇〇殺人事件」等の商品表題に特定の表現がある商品では、クレジット決済が取り扱えなくなる旨の通知があった事実が発覚し、表現の規制について参議院議員により問題提起が行われました。

こうした中、新たな決済手段としてのブロックチェーンに注目したのがスケブコインです。既存のSNS上でクリエイターへ投げ銭が可能となる新サービス（現在開発中）での利用や、Zaif Paymentでの決済可能資産にスケブコインを追加するなど、Skebをはじめとした国内のECサイトでの決済に利用できるユーティリティトークンとしてスケブコインが発行される予定です。

今後、Skeb利用者へのエアドロップの実施なども検討されており、IEOが実施された場合には、取引所での売買も可能となります。なお、スケブコインは2022年10月頃より暗号資産交換所Zaifにおける取扱い開始を目指しております。引き続き、ご支援をよろしくお願いいたします。

3. 当社グループの業績に与える影響

本業務委託契約の締結による業績への影響は、現時点では軽微であり適時開示基準に該当しない見込みです。今後変更が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

【お問い合わせ先】

株式会社クシム

URL : <https://www.kushim.co.jp/>

チューリングム株式会社

URL : <https://turingum.com/>

以上

